

# 『三方よしで広がるピア・サポート』

藤枝市立葉梨小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	・1年生を迎える週間 (4・5・6学年)	静岡県版 SEL 第1時	<b>特別活動部会 職員会議</b> ・積極的な生徒指導と本校 ピア・サポートの共通理解 ・静岡県版 SEL の配布
5月	・一年生を迎える週間 (2・5・6学年) ・運動会(全学年)	静岡県版 SEL 第2時	<b>研修</b> ・提案授業をもとにめざす 学級・授業像の検討・共通 理解 <b>職員会議 特別活動部会</b>
6月	・一年生を迎える週間 (5学年) ・全校学活①顔合わせ【縦】 ・弁当と遊び(昼)【縦】		
7月	・ピア・サポート週間 ・ペア活動(遊び・昼)	静岡県版 SEL 第3時	
8月 9月	・ペア活動(遊び・昼)		<b>特別活動部会 職員会議</b> ・実践の振り返り
10月 11月	・全校学活②遊び【縦】 ・音楽の集い(全学年)	静岡県版 SEL 第4時	
12月	・葉梨っ子クイズ大会 (児童会企画・運営)		<b>職員会議 特別活動部会</b> ・実践の振り返り
1月	・ペア活動(遊び・昼) ・百人一首に親しむ週間 (全学年)		<b>特別活動部会</b>
2月 3月	・6年生に感謝する会 (全学年) ・ペア活動(遊び・昼) ・ありがとう週間		<b>職員会議 教育課程</b> ・今年度実践のふりかえりと 来年度のピア・サポートに 向けて

重  
点  
目  
標

三方よしでチャレンジする子

合い言葉

自分よし

相手よし

みんなよし

生徒指導の柱

積極的な生徒指導

研修(授業)の土台

どの子どもについても居心地のよい学級

## 1 本校のピア・サポート

本校の重点目標は「三方よしでチャレンジする子」である。「三方よし（自分よし・相手よし・みんなよし）」を合い言葉に、時や場、人など周囲の状況に応じてよりよい行動を自ら選ぶとする姿を育てている。縦割り活動やペア活動などの異学年交流、行事を通し、子供同士の関わりを大切にしながらピア・サポートを意識した取組を進めている。

## 2 本年度の取組

### (1) 授業において

本校では、「心が動く授業」を研修テーマに掲げ、「自ら考え 対話を通して学びを深める」を重点として取り組んでいる。今年度は「主体性をもって授業に臨む」ことを目指し、自ら考えた意見をもつための手立てとして「自己決定の場」を設け、学び方を選んで対話に参加する姿の育成を図った。進め方や資料の選択、班での意見共有など、よりよい学び方を選択する活動を取り入れた。また、「まとめ・振り返り」で友達の意見を踏まえた考えの変容を言語化し、他者との関わりを価値付けた。これにより、相手を意識して話したり聴いたりする姿が増え、授業の中でピア・サポートが自然に機能する場面が見られるようになってきた。

### (2) 特徴的な活動

#### ① 委員会による活動

- ・三方よし見つけ（児童会、各委員会）〈提言3、6、7〉

「三方よし」は広まりつつあるが、行動につなげられない児童が多かった。そこで児童会・委員会が三方よしにつながる行動を放送で紹介し、昇降口の「かがや木」への掲示や具体的な行動例の提示を行ったことで、ピア・サポートにつながる行動が増えてきた。

- ・葉梨っ子の声コーナー（児童会、各委員会）〈提言3、6、7〉

児童会や各委員会では、要望を書いて投函できる「葉梨っ子の声コーナー」を活用し、子供の意見を活動改善に生かした。掲示によって全校で共有することで、よりよい学校づくりに主体的に関わろうとする姿が見られた。

- ・葉梨っ子のクイズ大会〈提言7〉

児童会が中心となって企画・運営したイベントとして、全校を対象にしたクイズ大会を実施した。学校生活に関する内容を楽しみながら振り返る機会となった。クイズを通して学年をこえた関わりが生まれ、学校全体での一体感が高まった。

#### ② 行事や日常生活でのピア・サポート

- ・1年生を迎える週間（各学年）〈提言1、6〉

4月から6月にかけて、各学年が1年生に学校探検や牛乳パックの開き方など学校生活の基本を教える活動を行った。ペア学年以外との交流の場となり、子供たちは先輩としての自覚をもち、意欲的に関わる姿が見られた。

- ・縦割り活動・ペア活動（縦割り活動：全学年、ペア活動：ペア学年）〈提言1、4〉

今年度から従来のペア活動に加えて縦割り活動に取り組んだ。全校学活での顔合わせや弁当、遊びを通して6年生が下級生を導く姿が見られ、下級生も上級生に憧れをもつ場面があった。楽しく交流できるグループも多く、異学年の関わりが広がった。

## 3 本年度の成果と来年度に向けて

子供たちは「三方よし」を意識し、学校生活で思いやりの行動を取ろうとする姿が増えた。児童会・委員会の放送や掲示、葉梨っ子の声により三方よしの行動が可視化され、互いのよさを認め合う雰囲気も広がった。また、縦割り活動では上級生が下級生を導く姿や、異学年のあたたかな関わりが見られた。

来年度も児童会を中心に、学校全体に三方よしの行動を根付かせ、異学年交流を充実させたい。